



2022年1月1日

## 第125号お知らせ版

NPO法人 響き合いネットワーク東京 SP の会

## NPO Resonate Network Tokyo SP

新年おめでとうございます。

神永教子

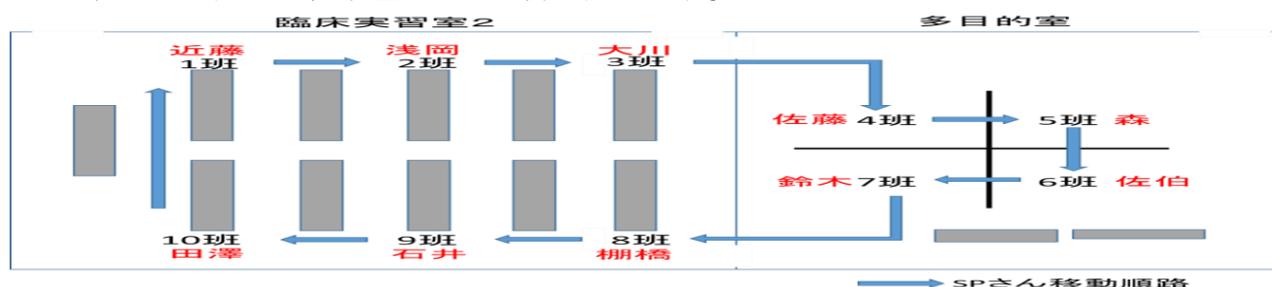
○12月3日(金)12:30~東京医科歯科大学の追試に石井さんが参加しました。11月に体調を崩し、お休みした学生の追試となりました。なかなか素晴らしい出来でしたとの感想でした。

○12月6日(月)9:30-12:00 神奈川歯科大学4年生との医療面接がありました。1号館2階多目的室に集まり、9時15分よりロールプレイ開始

ロールプレイ5分⇒フィードバック4分⇒移動1分

4人終了後に15分休憩をとります。

フィードバックは、学生⇒SPの順で行います。



自分の疾患を確認する SP



これでよかったでしょうかと SP 間で情報交換

### 感想

佐藤峯雄

12月6日(月)神奈川歯科大学のロールプレイ実習に10名のSPが参加しました。今回の私のシナリオは、急性化膿性歯髄炎でしたが、歯学部4年生は、とても良く勉強されていて、質問は、的確で話の流れも非常に上手かったと思いました。さらに、ゆっくりと間をとりながら、患者に寄り添える話し方に近づけるよう、これから頑張ってもらいたいです。私も模擬患者として、話し方や演技力を向上させなければならないと思いました。

神奈川歯科大学 4 年生 116 名から参加体験型実習についてのアンケートを頂きました。

1.

1)今後の患者対応の参考になった。 81.85%

2)もう少し工夫が必要 1.7%

3)あまり意味がない 0

2.2)または 3) を選んだ方はその理由をお聞かせください。

① 普段とは違う環境で自分がどのくらいできるのか参考になった。

② 自分の時は良かったが、他の学生の時に学生の質問に 3 つも答えていた。SP にばらつきがあった。

③ 時間がかかなりタイトな面接になったため、どのような流れかなど、互いにより工夫する必要があると思った。

3. SP の演技についてお伺いします。(○ で囲んでください)

1) 患者の性格が

① よく分かった ⇒ . . . . 65.5%

② すこし分かった ⇒ . . . . 17.2%

③ あまり分からなかった ⇒ . . . . 1.7%

④ わからなかった . . . . 0

2) 患者の気持ちが

① よく理解できた⇒ . . . . 68.1%

② 少し理解できた⇒ . . . . 14.6%

③ あまり理解できなかった . . . . 0

④ 理解できなかった . . . . 0

3) 患者が何を聞きたいか

① よく分かった ⇒ . . . 65.5%

② 少し分かった ⇒ . . . 17.2%

③ あまり分からなかった 0

④ わからなかった 0

以上から SP の質のばらつきと演技力に問題があると思います。今後の研修の参考になりました。

○12月6日(月)評価機構がオンラインで、模擬患者の標準化について、委員会の委員による発表がありました。当会からは神永教子と貞信が参加しました。

SPの質の標準化について報告されていましたが質の均一化ではないかと思えます。このために2月に評価機構で研修会を開くとのことです。対象はまだSPとしての練習をしていない新人を対象に行うとのことです。詳細がわかりましたらお知らせいたします。

○12月21日(火)9:30-16:30まで千葉の習志野にある東邦大学健康科学部所属の看護学部4年生64名に技術試験を実施、「糖尿病患者に対しての退院支援」です。14名のSPが参加して、試験を行いました。終了後に教官からフィードバックを行います。



21日担当SPは全員集合 カーターンで1ベットごとの病室設定 指導教官とSPの打ち合わせ



担当教官とSPの打ち合わせ。要望も含めて意見交換。とても勉強になりました。

○12月22日(水) 21日に続いて男性SP4名による「点滴中の患者の寝間着の交換」を実施しました。



酸素チューブがマスクでかくれて、外れているのに気が付く学生と付かない学生さんがいました。酸素鼻孔カニューラ感想

石井政幸

私は、2021年12月21日(火)、東邦大学健康科学部「退院指導の技術試験」に、模擬患者として参加しました。

役どころは、糖尿病2型と診断後、1週間検査入院中で明日退院。血糖自己測定を始め3日経ちましたが、測定に時間がかかってしまっていて、「明日、退院しても測定が正しくできるだろうか?」と不安を抱えています。また、糖尿病に関する栄養指導を受ける前は、飲食全てにおいて制限があると思っていたが、容量を守れば大丈夫と聞き少し安心して、指導を妻と一緒に受ける設定です。

私に対して学生の皆さん(4年生)は、糖尿病患者に向けて作ってきたパンフレット等をもとに、退院指導をする看護師役です。

試験の為なのか、入室時の自己紹介をする時に、緊張するあまり言葉が出てこなかった人や自分の作ったパンフレットを胸に抱えて震えていた人(半袖で寒かったせい?)、普段は出来ているのに緊張して実力が出せなかった人、それぞれ緊張や一生懸命さが伝わりました。

退院指導の順番は、血糖自己測定の重要性から始まり、食事療法、合併症、低血糖まで。衛生面、測定の器材、消毒綿、記録ノート、針捨てボックスなどを、それぞれ手に取って詳しく説明してくれました説明してくれた人の

内の一人に、「穿刺の後は、消毒は1回だけで良いのですか?」「1回で血は止まりますか?」と私が不安に思っていたことを質問したところ、学生からすれば、このような質問が出て来るとは想定していなかったのでしょう。「そうですね、心配ですね。私は即答出来ませんが、医師や上司に相談してから後ほどご報告いたします。」との言葉が返ってきました。

役を通じてではありますが、医師や上司に相談しますという言葉は、不安のあった私に安心感を与えるものでした。また、パンフレットを見ながらの指導は、私の知識不足を感じ、妻と一緒に取り組まなければいけないと思わせてくれました。糖尿病の高血糖も気を付けなければならない反面、低血糖にも気を付けなければならないという指導を受け、「血糖自己測定」がとても重要だと気付かせてくれました。

学生の皆さんお疲れ様でした。皆さんの患者さんに寄り添う思いは十分に伝わりましたので、今後の奮闘を期待します。

12月22日の感想

石井政幸

私は、2021年12月22日(水)、東邦大学健康科学部「寝衣(上半身)交換の技術指導」に、模擬患者として参加しました。

試験の内容は、点滴針の交換時パジャマの右袖部分に血液汚染が有り、パジャマの上衣を交換するというもの。私は、COPD(慢性閉塞性肺疾患)の患者役です。

入室時、学生は替えのパジャマの上衣を持って入り、私は、酸素チューブが外れてベッドの上で座っているという状況で、試験がスタートしました。

入室後の自己紹介中に、酸素チューブが外れているのに気づき、慌てはしたものの、患者指導を行い、協力を得ながらチューブの付け直しをした学生さんやチューブが外れてしまったときどうしたらよいかを自ら手本を見せた後、酸素吸入の大切さを説明した学生さんなど、パジャマの交換に来たのに想定外のことが起きていた時の対応力は、学生さん達それぞれの個性が出ていたように思います。

この他にも、下記のように短い時間内で、課題を終わらせようと必死に取り組んでいる学生さんたちが印象に残りました。

1. 酸素チューブが外れているのに気づき、SPO2(酸素飽和度)を計測し患者の状態を把握してから、パジャマの交換はできたが、チューブがパジャマの内側に入ってしまい最後になって誤りに気が付いた学生さん。
2. 外れていた酸素チューブを正しく付け直し、パジャマの交換も的確に早くできた学生さん。(びっくり!!)
3. 自分の考えを正しく正確に行おうと思いつき入室したものの緊張のあまりに言葉と動作がギクシャクして、パジャマの交換に時間がかかってしまった学生さん。
4. 酸素チューブを付け直してパジャマの交換に移ったら、点滴チューブが装着されている右腕の方の着脱に苦労していた学生さん。

学生さん達みんなから、一人の医療人になる為の思いや努力を充分に感じた一日になりました。

今年度の活動はこれでおしまいです。

クリスマス・お正月と体重の増加に注意してください。また、コロナにも十分気を付けてください。手洗い・マスク・人が大勢集まる場所には近寄らない。



11月から新しいお仲間2名の紹介です。

滝島美代子さん成増にお住まいで近藤久恵さんの紹介で、近藤さんと同期の方です。

黒田由美子さん西習志野にお住まいです。

文責 神永教子